

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

66



みなさん、地域包括ケアシステムを「存じ」でしょうか？団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加します。地域包括ケアシステムとは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと「住まい・医療・介護・予防・生活支援」等のサービスが包括的、一体的に提供される体制の構築を意味しています。

ドアすわは諏訪市の地域包括ケアシステムに取り組むために、小松郁俊元センター長、宮坂圭一前センター長らにより、平成29年4月に開設されました。

ライフドアすわは諏訪市、諏訪

地域包括ケアシステムは、市町村や都道府県が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要とされています。

赤十字病院、諏訪市社会福祉協議会、歯科医師会、薬剤師会、各種高齢者施設の方々のご協力を戴き、諏訪市医師会の方々の大きなご協力により多くの事業が着実に運営されています。

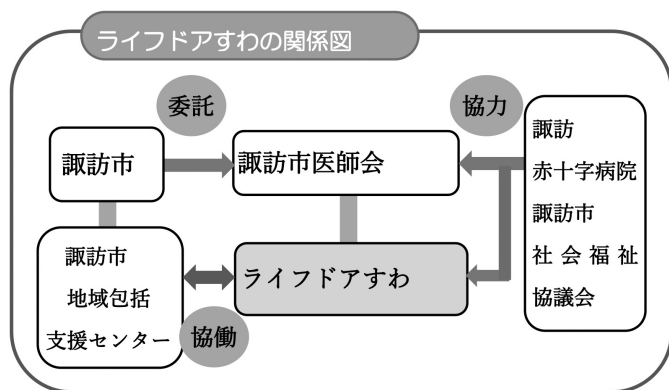
「ライフドアすわ」の正式名称は「諏訪市地域医療・介護連携推進センター」といいます。ライフ

ここでライフドアすわの事業について説明いたします。

“ライフドアすわ”

諏訪市地域医療・介護連携推進センター長（諏訪市医師会長）

こ じ ま よ う じ
小島 洋二



◆ライフドアすわの4つの事業◆

- ①在宅医療・介護連携推進事業
- ②生活支援体制整備事業
- ③認知症総合支援事業
- ④地域ケア会議推進事業

平成29年4月より諏訪市医師会が諏訪市からの委託を受け、介護保険制度改正による、新しい包括的支援事業として4つの事業を一体的に実施することにより、高齢者に対する包括的な支援体制を構築しています。

“7年目を迎えて”

1、在宅医療・介護連携推進事業

①地域の医療・介護の資源の把握をし、地域の医療機関や介護施設の住所や機能を掲載したガイドマップを作製しています。②在宅医療・介護連携に関する普及啓発活動として、自分自身の最期を踏まえて受けたい医療・介護を考える機会「人生会議」を、諏訪市版・リビングウィルについて考えましょう」として展開していく予定です。令和5年8月5日に開催する開所記念講演会にてお披露目いたします。

2、生活支援体制整備事業

①生活支援サービスとして「ぴっぴの手（有償ボランティアサービス）」、「かりんちゃんバス無料乗車体験」家事・買い物・外出支援サービス業者を集約した「お役立ちガイド」の作成をしています。

②介護予防サービスとして「すわっこいきいき体操」の出前サービスをを行っています。③地域の困りごとや課題を共有して地域としての解決を図る会議の場（協議体）を設けています。

3、認知症総合支援事業 ①認知症地域支援推進員を配置し、認

知症の啓発、認知症の本人や家族の支援を行います。②認知症初期集中支援チームを諏訪市地域包括支援センターと協働で行っています。認知症専門医などによる指導のもとに、認知症の方やご家族に必要な医療や介護を初期に集中的に支援していきます。③認知症カフェ「えがお」をライフドアすわにて行っています。（第3火曜日 午後1時から）④認知症の啓発として講演会を毎年開催しています。また出前講座も行っています。

4、地域包括ケア会議推進事業

地域包括ケアシステムを推進していくためには、医療介護にかかわる多職種会議や事例検討会が必要です。それによって地域のネットワーク構築を行っています。また、地域課題の把握に努め多職種協働セミナーを開催し、解決策を検討・提案しています。

住み慣れた街で安心して暮らしていくことができるように、地域全体で支え合う事を目指して活動しています。ライフドアすわ

に希望される事や、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。医療・介護について困った事がありましたら、気軽に「ライフドアすわ」の扉を叩いて下さい。

（毎月第2日曜日掲載）